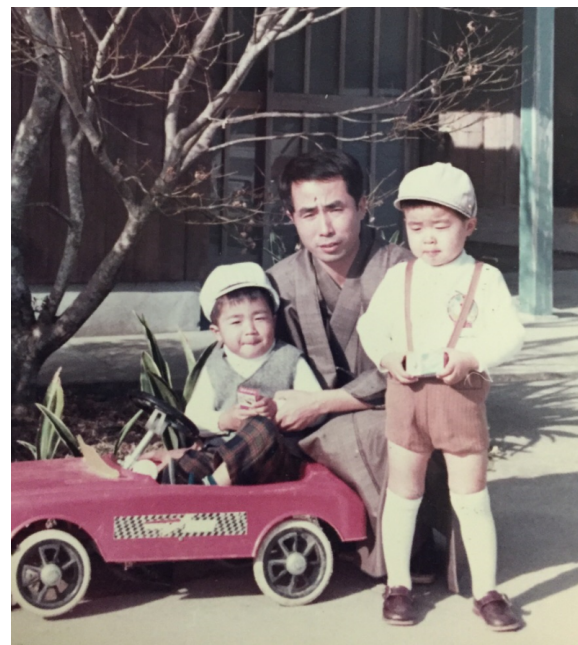


なぜ税理士を目指したのか？



私が一番尊敬しているのは、3年前に胃がんで亡くなった父です。祖父が42歳で他界したため、父は大学進学をあきらめ、幼い4人の兄弟を祖母を養うため必死に働いたそうです。そして長い修行をへて、浜松で紳士シャツの製造する小さな会社を立ち上げました。

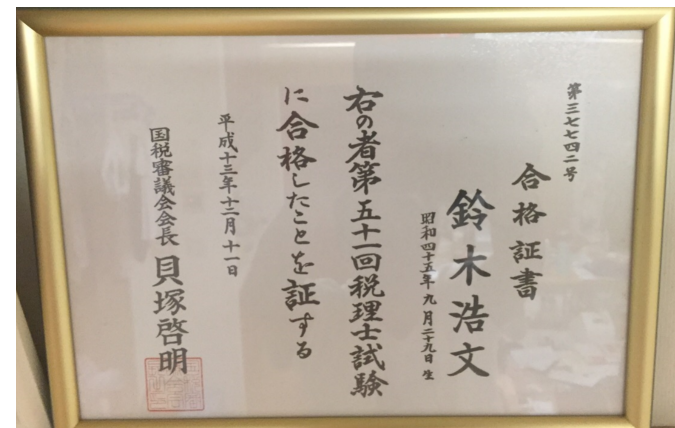
父は年に数回でしたが、税理士さんとの打ち合わせの話をしてくださいました。税金の事はもちろん、経営について悩んだときにもいつも相談にのってくれていた先生でした。



税務署にバレないためにはまずは**税理士にバレないことだ！**
酔っぱらった勢いでそんなことを聞いた記憶もあります**(笑)**

子供のころでしたので良くわかりませんでした、
難しい話を嬉しそうに話す父の姿が
いまでも鮮明に思い出されます。
父は**税理士と一緒に会社を経営しているような**
そんな印象を持ちました。

一番尊敬する父を支えてくれる人、父と一緒に未来を創ってくれる人。
私にとって税理士とはそんな存在だったのです。



創業の精神

25歳で税理士業界に入った私は、**マルサOB税理士**、
公認会計士事務所、大手税理士法人と3つの税理士事務所を
経験しました。

いろんな経験をさせて頂きましたが、
一番驚いた経験は**大手税理士で企業再生**に従事していた時です。

マルサOB事務所時代(当時25歳)
20歳の女の子に帳簿のつけ方を
習っていた



創業の精神

平成13年、民事再生法が施行され、金融機関の破たんが珍しくなかった時代。財務状況が悪くなった会社を銀行から紹介してもらい、その会社の財務体質の改善し再生するという仕事です。

そごう 経営破たん



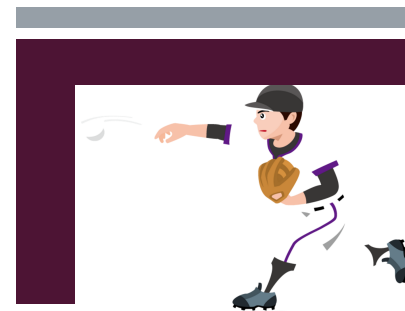
7月、大手デパート・そごうの経営が破たんした。バブルの波に乗って店舗を増やしてきたそごうは、平成4年度に売上高日本一を記録したがその後売上げが伸びず、1兆7000億円の負債を抱えていた。そごうは金融機関に6300億円の債権放棄を求めたが認められず、民事再生法の下で再建を図ることになった。この年だけで有楽町店をはじめ13店舗を閉鎖、従業員も3分の2に減らして再スタートすることになった。



その部署で1勝9敗という目標がありました。

みなさん何だと思いませんか？

創業の精神



再生させる企業の割合を、着手した会社の1割以上を目指すということです。

つまり、9割は破たんするという前提で業務にあたっていたこととなります。
また、さらに驚くべきことに、銀行から紹介される財務体質のかなり悪い会社の社長の、そのほとんどが自社の貸借対照表がよめず、社長が自社の財務体質の傷み具合がまったく把握できていないことでした。

貸借対照表 😊

資産	負債
	資本

みおるん、
今日はさらに豆頭の
回転が悪い!!

シフォン?
ケーキ?
(資本)



BS?
バスケット?
(バランスシート)

正直愕然としました。

なぜここまで社長が実態を把握していないのか...

毎期の利益とそれに対してかかる

税金にばかり目が行っている

ツケが回ってきたから...???

創業の精神



私はハッとしました！！

これは社長の責任ではない。

会計事務所がミスリードしているからではないのか？

いつもの報告でPLと税金の話ばかりしているからではないのか？

単に計算するだけの会計事務所から社長を守りたい。
会社の繁栄のためにBSとCFの重要性を伝えたい。



社長と一緒に経営に携わり、社長を元気にしたい。
そして、社長と一緒に未来を創りたい。
父の顧問税理士のように…



これが、私の創業の精神です。